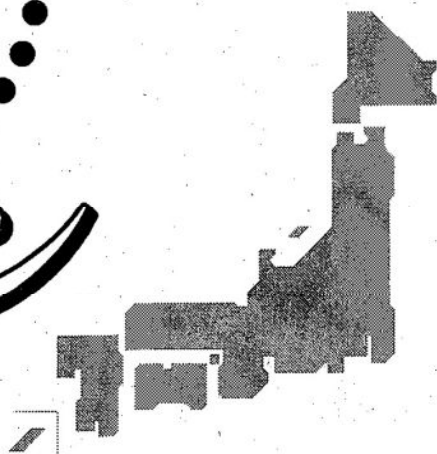


# ふるさと ホットライン



## 徳

島県鳴門市で大学の研究者とボランティア

アが協力し、魚がすむ田んぼで、特産のレンコンを育てるユニークな取り組みを進めている。自然環境を守りつつ、収量アップの「一石二鳥」を目指す。

徳島県は全国2位のレンコン産地だが、水路の底にたまった泥を取り除くのは高齢の農家にとって重労働のため、コンクリートで整備するところが増えている。

そんな中、2004年に鳴門市の水路で、県内では絶滅したと思われていたコイ科のカワバタモロコが見つかった。「このままでは魚がすみづらくなってしまふ」。徳島大の田代優秋助教(生態系工学)は、魚がレンコンの収量アップに貢献していることを証明することで、自然のままの水路を残すことができないかと考え

## 鳴門市、レンコンの田んぼに魚放す実験

徳島



田んぼの水草を取るボランティア＝徳島県鳴門市で

得た。フナがミミズなどのエサとともに余分な水草を食べ、水中の土も耕すためと推測される。

今年はお口コミで地元住民や農

た。昨年、鳴門市内の約80平方メートルの田んぼで実験を始めた。フナを放流した区画の収量が、そうでない区画より2割ほど多いとの結果を定。田んぼに入りやすい環境をつくった。収穫は10月の予定。家、企業から約40人のボランティアが参加して、6月に水路の水草を切り、魚が